創立30周年記念式典　ル　ポ

昭和62年10月16日(金)に，神田・学士会館にて創立30周年記念式典が催されました．当日は秋季研究発表会の前日で雨にもかかわらず86名の出席が得られ，盛大な式典となりました．出席なされた方々には，ＯＲ学会が創立された頃に，会員とし，ご活躍になった方もおられました．

式典の司会は古林庶務理事によって行なわれました．

会長挨拶

吉山会長より創立30周年に当って，記念事業のための委員会を作り委員長を近藤次郎先生にお願いして執り行なったとの説明があった．今後は，関連学会の日本経営工学会と日本品質管理学会との連携をさらに深め，新しい日本のあるべき姿に対して貢献し，さらに，国際的な場における活動を推進してゆきたいと述べられた．最後に，今後とも会員の皆様のご協力をいただいて堅実な運営と学会の発展をさらに期待したいとの挨拶があった．

記念講演

近藤次郎日本学術会議会長より「ＯＲ学会の30年を振り返り将来を展望する」と題して記念講演がなされた．この講演は，ＯＲ初期の第二次世界大戦中の起こりから始まり，今後のＯＲがどのようなことを要求され，行なっていなければならないかについてのお話があった．そのさい，日本においてもＯＲに似た戦時研究がなされていたはずであるが，歴史的な資料が終戦と同時に散逸してしまって不明となっており，それら資料を見つけ出してそのアイデアのたねを取っておく必要があると述べられた．現在までは，手法を学習し，改良して実際に応用して成果をあげてきたが，今は，環境が変化してハードからソフトへと移ってきている．コンピュータの発達にともなって，シミュレーション技術が発展して現象の再現が容易になり，現場においては，ロボットやＦＡ機器が導入されて産業界も変化している．この傾向は，さらに続いていくため，企画と運用の学問としてのＯＲへの期待は大きいものになる．このためにも，実際に即した泥まみれの問題に挑戦して，実績をあげて洗練された理論を構築していく態度が必要である．また，これからは目的と制約が与えられて解くという時代ではなく，どのような目的をとり，どのような制約を考えれば良いかを考慮しなければならない．さらに将来を見通すことは困難であるが，将来は予測技術というものが重要になりそれに対するＯＲの貢献が望まれることになるという私見も述べられた．

会長挨拶

祝　辞

次に，日本学術会議第５部長の伊藤氏に代って学術会議会員で経営工学担当の今井兼一郎氏より祝辞があった．また，経営工学会会長の秋庭雅夫氏，品質管理学会会長の池沢辰夫氏の代理として今井兼一郎氏から祝辞が述べられた．

創立30周年記念事業報告

• 事業の概要について記念事業委員会委員の海辺不二雄氏より説明があった．なお，概要は次の４つに分れている．

(1) 記念式典およびパーティ
(2) 長期計画
(3) ＯＲ誌表紙の変更と記念特集号
(4) 歴史的資料保存のための委員会

この(3)のＯＲ誌表紙は，公募がなされ高井英造氏が入選して本年１月号から変更になっており，また，記念特集号については６月号「ＯＲの図解」としてすでに刊行されているとの報告があった．(4)の歴史的資料の保存に

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

日本学術会議会長の記念講演

乾杯の音頭をとる横山元会長

ＯＲ誌表紙デザイン入賞の高井氏

懇　親　会

ついては筑波大学の渡辺浩氏に委員長をお願いして行なうつもりであるので協力して欲しいとのお願いがなされた.

• 長期計画については長期計画グループ主査の森村英典氏より説明があった.

長期計画グループを昭和61年の４月に，研究・編集理事を中心に作り，他の理事の方々の意見を伺いながら長期計画を作成した．今回の長期計画は25周年の長期計画「ＯＲ学会のすすむべき方向」をフォローする形でまとめあげて，研究・普及・国際化・永続性の４つに重点をおいて次の４つの提言の形にまとめた．（当日，創立30周年記念長期計画書を配布）

(1) 対外関係の充実

(2) 研究・普及活動

(3) 刊行物

(4) 学会の運営

さらに，内容についてはいろいろ意見を頂きたいとのお願いもなされた.

ＯＲ誌誌表紙デザイン入選の表彰

最後にＯＲ誌表紙デザインの入選の表彰がなされ，高井英造氏に会長より表彰状と賞金が授与された.

この後，会場を移し30周年記念パーティが催された．パーティの出席者は84名で，大変にぎやかな会となりました.

小沢正典（庶務幹事）記

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．